

【樹木の部屋】

セイヨウボダイジュ (シナノキ科メシナノキ属 Tilia × europaea L. 1753)

和名：セイヨウボダイジュ **別名**：リンデンバウム **英名**：common lime

アオイ目 落葉性高木 **原産地**：フランス

花言葉：夫婦愛 **花の色**：



← **写真-1** セイヨウボダイジュの樹形 1

撮影日：2013 年 7 月 13 日

撮影場所：ヴォルツァーノ (北イタリア) にて

撮影者：M さん

市内散策中に見かけました。教会の前に一本だけ、植えられていました。あまり見かけない樹なので・・・。

後で調べたところ、セイヨウボダイジュ。キリスト教系の教会に仏教系の名前の樹木・・・。なんとなく、不思議な気持ちになりました。セイヨウボダイジュより、リンデンバウムの方が良くしられているのでは・・・？



→ **写真-2** セイヨウボダイジュの葉

撮影日：2013 年 7 月 13 日

撮影場所：ヴォルツァーノ
(北イタリア) にて

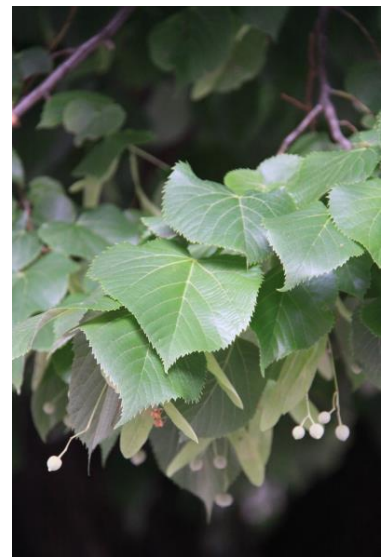
撮影者：M さん

← **写真-3** セイヨウボダイジュ
の樹形 2

撮影日：2015 年 7 月 11 日

撮影場所：サンヴィンサン
(北イタリア) にて

撮影者：M さん



ホテルの周囲を散策中に見かけました。街路樹です。



← 写真-4 セイヨウボダイジュの苅込樹形

撮影日：2016年5月30日

撮影場所：シャンポール城

(フランス・ロワール渓谷)にて

撮影者：M さん

世界遺産のロワール渓谷にあるシャンポール城正面の庭園に植栽されていました。



← 写真-5 セイヨウボダイジュの幹

撮影日：2016年5月27日

撮影場所：アヴィニオン（フランス）にて

撮影者：M さん

→ 写真-6 セイヨウボダイジュの実

撮影日：2016年5月27日

撮影場所：アヴィニオン

(フランス)にて

撮影者：M さん



← 写真-7 セイヨウボダイジュの枝

撮影日：2016年5月27日

撮影場所：アヴィニオン（フランス）にて

撮影者：M さん

写真 5～7 は城壁に囲まれたアヴィニオンの旧市街にありました。ガイドさんが、リンデンだと説明してくれました。

ところで、ボダイジュと呼ばれる樹ですが・・・インドボダイジュ(クワ科イチジク属)は、お釈迦様が悟りを開かれた場所にあった樹でインド原産。熱帯性。ボダイジュ(シナノキ科シナノキ属)は、中国原産。インドボダイジュは、中国では育たないため、葉の良く似ている樹をボダイジュにしたそうです。リンデンバウムとは・・・シューベルトの歌曲に出てくる菩提樹と同じと解釈？ですが、少々疑問が・・・本来、リンデンバウム＝セイヨウシナノキ(シナノキ科シナノキ属)は、ナツボダイジュとフユボダイジュの交配種だそうです。そしてセイヨウボダイジュ＝ナツボダイジュ。なかなか見分けの付きにくい樹だそうで、その呼び名も結構、混乱しているようです。多くは、セイヨウボダイジュ＝セイヨウシナノキ？

ヨーロッパでは古くから植えられ、木材は楽器や木彫材などに利用されているとか。また、樹皮は繊維を採るためにも利用される。葉と苞と花はコモンライムという名でハーブとしても利用され、フランス語由来のティュールで知られている。花は蜂蜜の蜜源として珍重されているそうです。

夏に黄味を帯びた花が咲き、シナノキ (*Tilia japonica*) に良く似て雄しべが花びらより長く出ています。花柄の籠状の苞に柄があり、花は芳香があるので虫や蜂が集まるそうです。

葉の質感は厚みが、また、形は丸みがありシナノキ (*Tilia japonica*) に比べ大きめで光沢はなくザラザラしている感じ。幹は滑らかで縦の裂け目は目立たない (日本特有種のシナノキの幹は縦に細く割れる)

<ちょっと一言>

- ・シナノキは日本特産種 (アオイ目シナノキ科シナノキ属)
- ・お釈迦様に関連するボダイジュは・・・。

インドボダイジュ (印度菩提樹、学名 : *Ficus religiosa*) とは
クワ科イチジク属の植物の一種。

別名 : テンジクボダイジュ。無憂樹、沙羅双樹 と並び仏教聖木の
一つ。 仏教三大聖樹 (仏教三霊樹)。